第135回

トラック運送業界の景況感（速報）

令和8年7月～9月期

日銀短観（2026年9月調査）における大企業製造業の業況判断DIは、半導体関連の堅調な需要などから前回調査比2ポイント改善の24となった。一方、大企業非製造業は、原油価格や人件費の高どまり、設備価格や金利の上昇が収益を圧迫し、2ポイント悪化の35となった。

こうした中、トラック運送業では、燃料価格、車両価格、人件費等が負担増となり、輸送原価上昇分の転嫁が十分できていないことなどを背景に、今期、景況感は前回▲28.9から▲31.6へ2.7ポイント悪化した。

なお、来期の見通しは、事業環境の不透明感を織り込み、景況感は今回▲31.6から▲34.6へ3.0ポイント悪化する見込みである。

令和 8 年 11 月 19 日

公益社団法人　全日本トラック協会

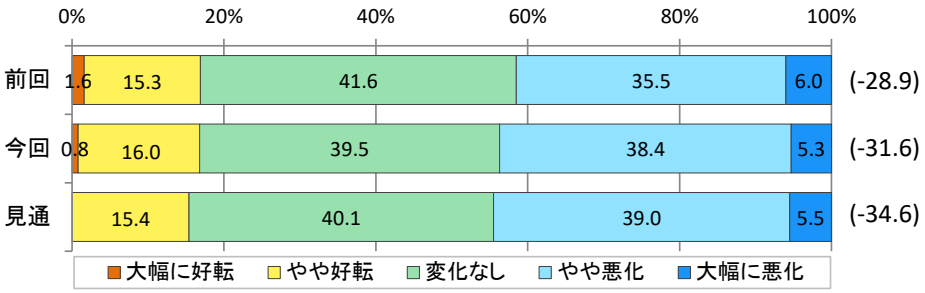
1　業界の景況感：今回（令和8年7月～9月期）の概況と今後の見通し

今回の状況	・燃料価格、車両価格、人件費等が負担増となり、輸送原価上昇分の転嫁が十分できていないことなどを背景に、今期、景況感は前回▲28.9から▲31.6へ2.7ポイント悪化した。
今後の見通し	・来期の見通しは、事業環境の不透明感を織り込み、景況感は今回▲31.6から▲34.6へ3.0ポイント悪化する見込みである。

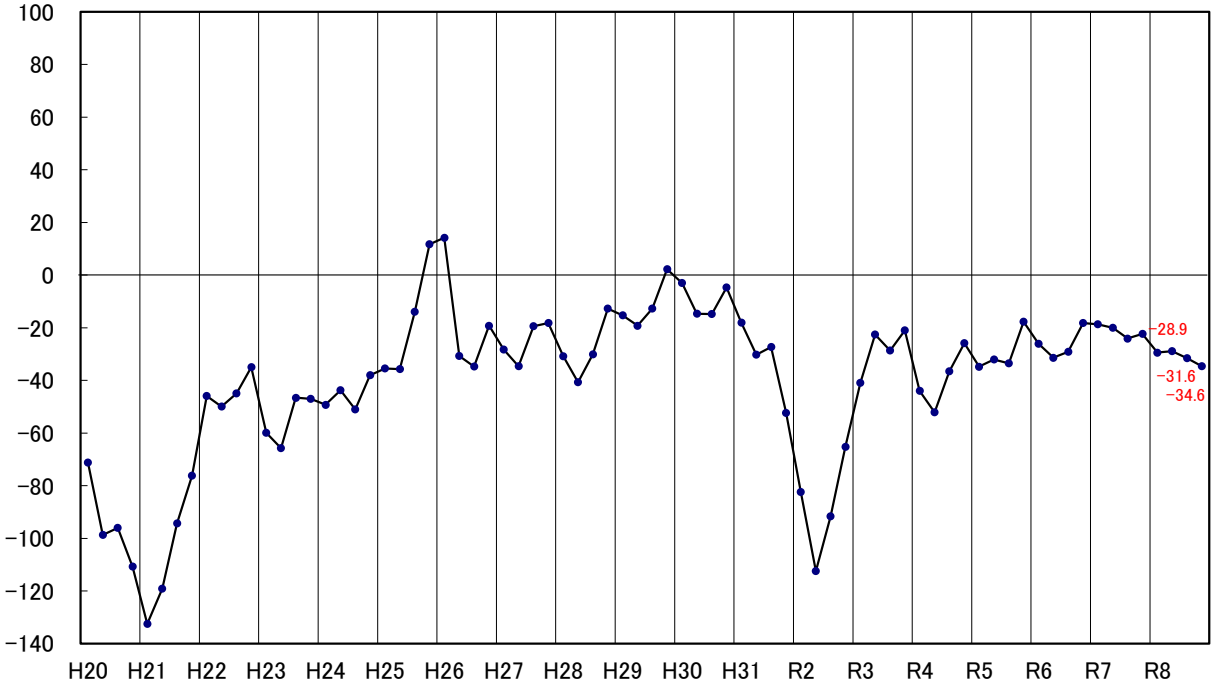
業界の景況感

・前回より2.7ポイント悪化した。

・今後は3.0ポイント悪化する見込み。



トラック運送業界の景況感（業況判断DI）の推移



（注1）各グラフ（3段の横棒グラフ）の上段は前回（R8.4月～6月期）の状況、中段は今回（R8.7月～9月期）の状況、下段は今後（R8.10月～12月期）の見通しを示す。いずれも前年同期比の回答である。
（注2）各グラフ（3段の横棒グラフ）の構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。
（注3）各グラフ（3段の横棒グラフ）右側にあるカッコ内は判断指数。各判断指数は、各設問の回答に対し、「大幅に増加・上昇・好転、労働力不足」は+2、「やや増加・上昇・好転、労働力不足」は+1、「横ばい」は0、「やや減少・低下・悪化、労働力過剰」は-1、「大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰」は-2の点数に置き換え、平均を100倍することにより各判断指数を算出している。
　A（設問Aの回答者数）＝a1+a2+a3+a4+a5（設問Aの選択肢1～5の回答数の和）
　指標＝{(+2×a1)＋(+1×a2)＋(0×a3)＋(-1×a4)＋(-2×a5)}÷A×100

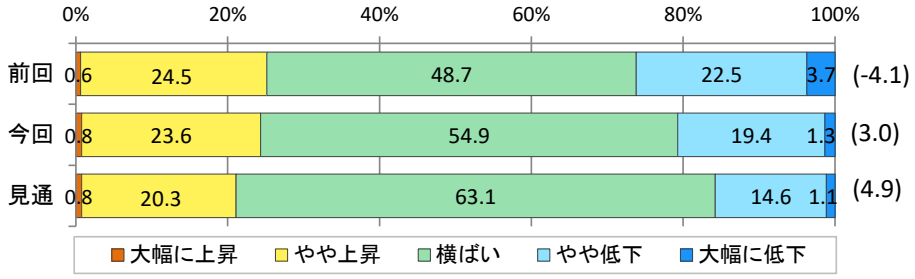
2　共通の概況①：今回（令和8年7月～9月期）の状況と今後の見通し

今回の状況	• 実働率は3.0（前回▲4.1）と7.1ポイント改善、実車率は▲5.1（前回▲8.2）と3.1ポイント改善し、輸送効率が向上した。 • 運転者の採用動向は▲3.0（前回5.4）と8.4ポイント低下、運転者の雇用動向（労働力の不足感）は95.8（前回89.9）と5.9ポイント上昇した（不足感が強くなった）。
今後の見通し	• 実働率は4.9（今回3.0）と1.9ポイント改善、実車率は▲1.9（今回▲5.1）と3.2ポイント改善する見込みである。 • 運転者の採用動向は▲8.0（今回▲3.0）と5.0ポイント低下し、運転者の雇用動向は100.2（今回95.8）と4.4ポイント上昇し、労働力の不足感は強くなる見込みである。

実働率

・前回より7.1ポイント改善した。

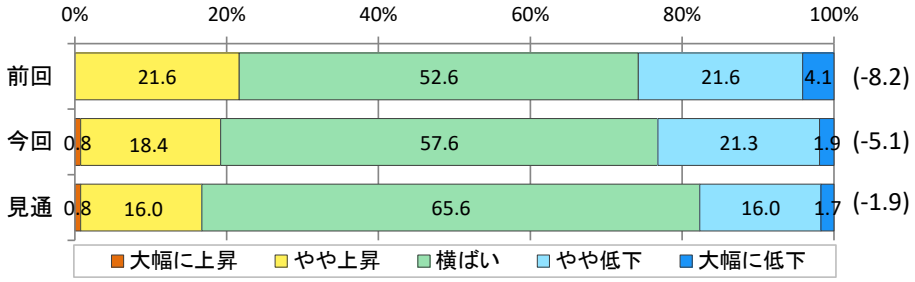
・今後は1.9ポイント改善する見込み。



実車率

・前回より3.1ポイント改善した。

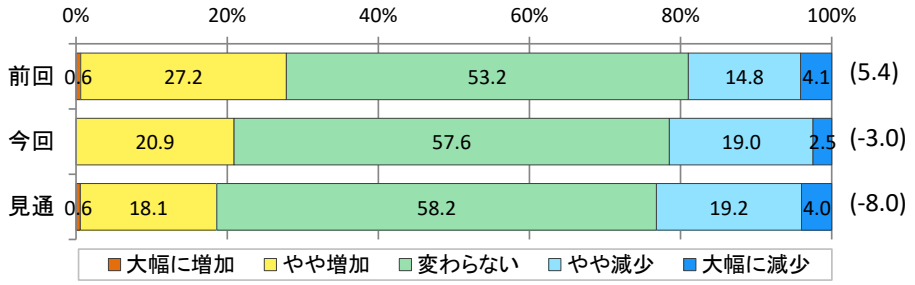
・今後は3.2ポイント改善する見込み。



運転者の採用動向

・前回より8.4ポイント低下した。

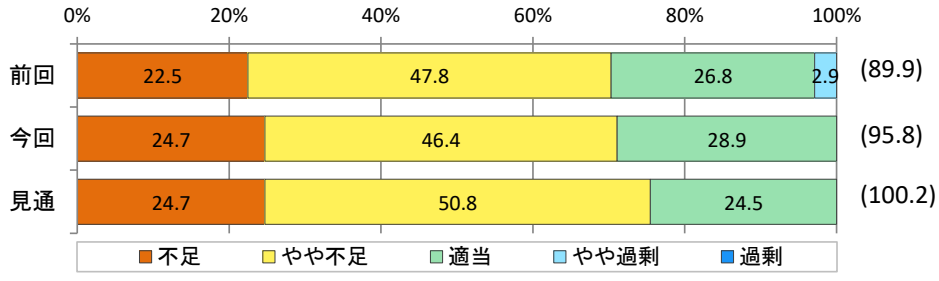
・今後は5.0ポイント低下する見込み。



運転者の雇用動向（労働力の不足感）

・前回より5.9ポイント上昇した(不足感が強くなった)。

・今後は4.4ポイント上昇する見込み。



（注4）雇用状況については、上段は前回（R8.4月～6月期）の状況、中段は今回（R8.7月～9月期）の状況、下段は今後（R8.10月～12月期）の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を集計している。

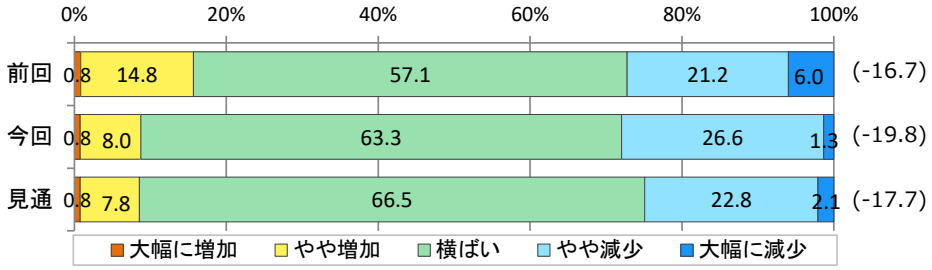
3　共通の概況②：今回（令和8年7月～9月期）の状況と今後の見通し

今回の状況	• 所定外労働時間は▲19.8（前回▲16.7）と3.1ポイント減少、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲9.9（前回▲6.6）と3.3ポイント減少した。 • 経常損益は▲17.5（前回▲7.0）と10.5ポイント悪化した。
今後の見通し	• 所定外労働時間は▲17.7（今回▲19.8）と2.1ポイント増加し、貨物の再委託は▲5.5（今回▲9.9）と4.4ポイント増加する見込みである。 • 経常損益は▲27.4（今回▲17.5）と9.9ポイント悪化する見込みである。

所定外労働時間

・前回より3.1ポイント減少した。

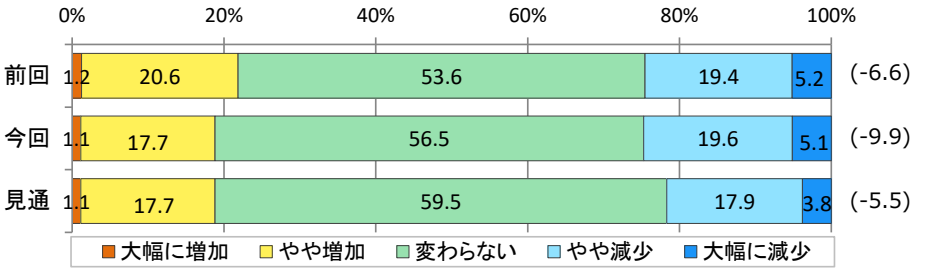
・今後は2.1ポイント増加する見込み。



貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）

・前回より3.3ポイント減少した。

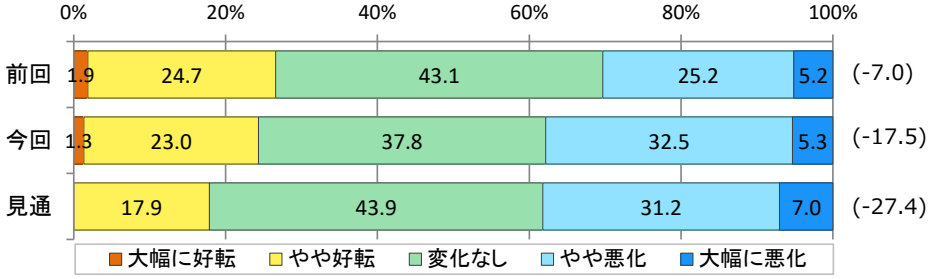
・今後は4.4ポイント増加する見込み。



経常損益

・前回より10.5ポイント悪化した。

・今後は9.9ポイント悪化する見込み。



【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第135回調査は、令和8年10月1日に、モニターに対して調査開始、令和8年10月31日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
52	489	526

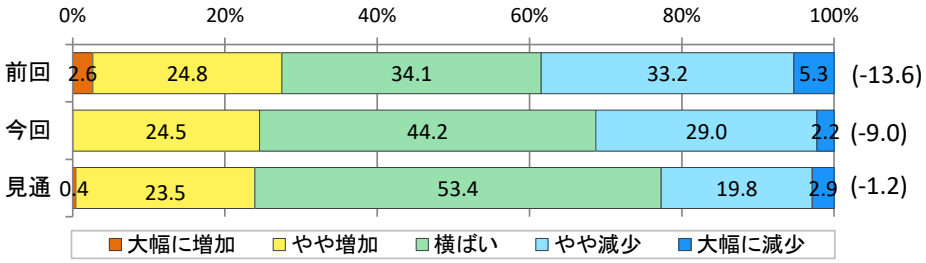
4　一般貨物：今回（令和8年7月～9月期）の状況と今後の見通し

今回の状況	• 一般貨物では、輸送数量は▲9.0（前回▲13.6）と4.6ポイント改善、運賃・料金の水準は32.9（前回32.7）と0.2ポイント改善し、営業収入（売上高）は5.5（前回4.0）と1.5ポイント改善した。 • 営業利益は▲13.9（前回▲11.6）と2.3ポイント悪化した。
今後の見通し	• 一般貨物では、輸送数量は▲1.2（今回▲9.0）と7.8ポイント改善、運賃・料金の水準は33.3（今回32.9）と0.4ポイント改善することから、営業収入（売上高）は6.3（今回5.5）と0.8ポイント改善する見込みである。 • 営業利益は▲13.5（今回▲13.9）と0.4ポイント改善する見込みである。

輸送数量

・前回より4.6ポイント改善した。

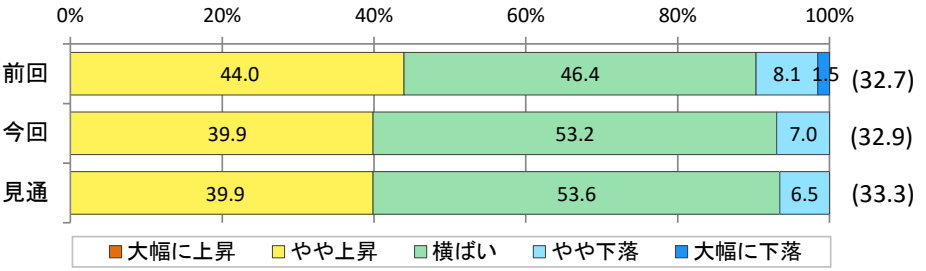
・今後は7.8ポイント改善する見込み。



運賃・料金の水準

・前回より0.2ポイント改善した。

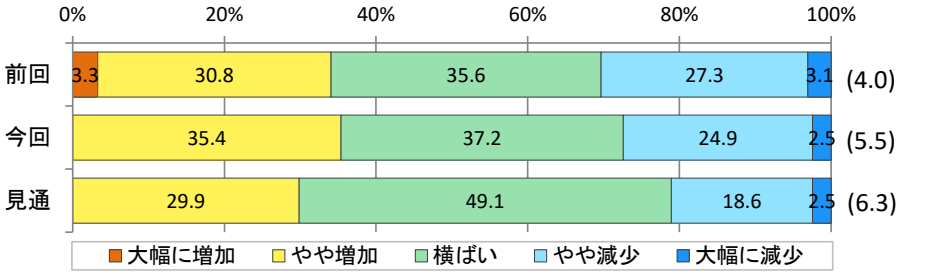
・今後は0.4ポイント改善する見込み。



営業収入（売上高）

・前回より1.5ポイント改善した。

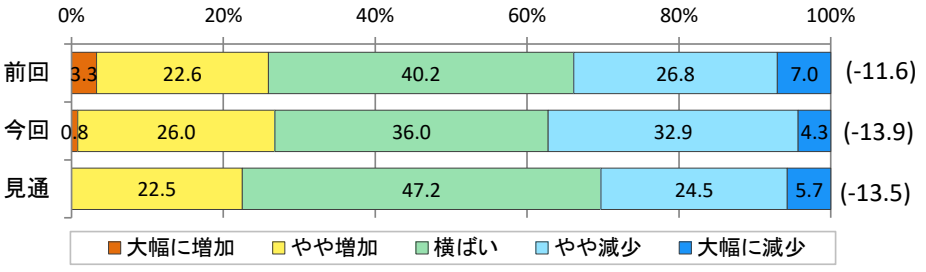
・今後は0.8ポイント改善する見込み。



営業利益

・前回より2.3ポイント悪化した。

・今後は0.4ポイント改善する見込み。



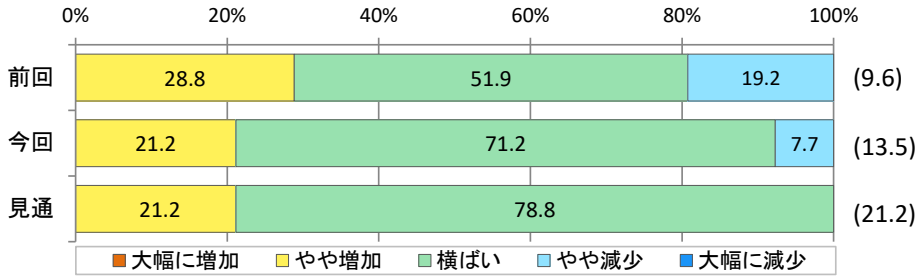
5　特積貨物：今回（令和8年7月～9月期）の状況と今後の見通し

今回の状況	• 特積貨物では、輸送数量は13.5（前回9.6）と3.9ポイント改善、運賃・料金の水準は46.2（前回40.4）と5.8ポイント改善し、営業収入（売上高）は21.2（前回17.3）と3.9ポイント改善した。 • 営業利益は5.8（前回9.6）と3.8ポイント悪化した。
今後の見通し	• 特積貨物では、輸送数量は21.2（今回13.5）と7.7ポイント改善、運賃・料金の水準は48.1（今回46.2）と1.9ポイント改善することから、営業収入（売上高）は25.0（今回21.2）と3.8ポイント改善する見込みである。 • 営業利益は7.7（今回5.8）と1.9ポイント改善する見込みである。

輸送数量

・前回より3.9ポイント改善した。

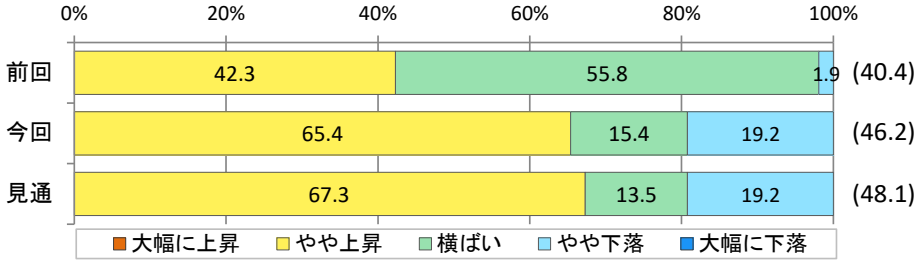
・今後は7.7ポイント改善する見込み。



運賃・料金の水準

・前回より5.8ポイント改善した。

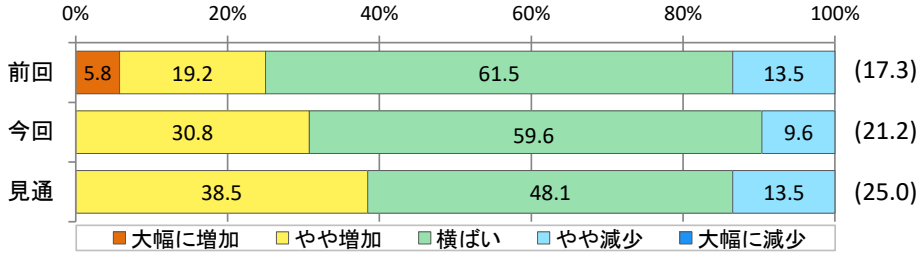
・今後は1.9ポイント改善する見込み。



営業収入（売上高）

・前回より3.9ポイント改善した。

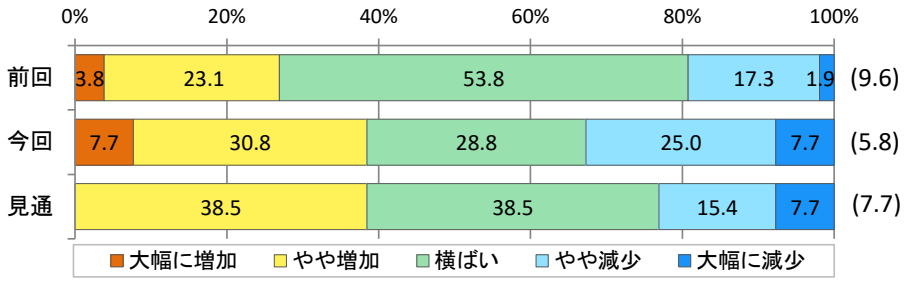
・今後は3.8ポイント改善する見込み。



営業利益

・前回より3.8ポイント悪化した。

・今後は1.9ポイント改善する見込み。



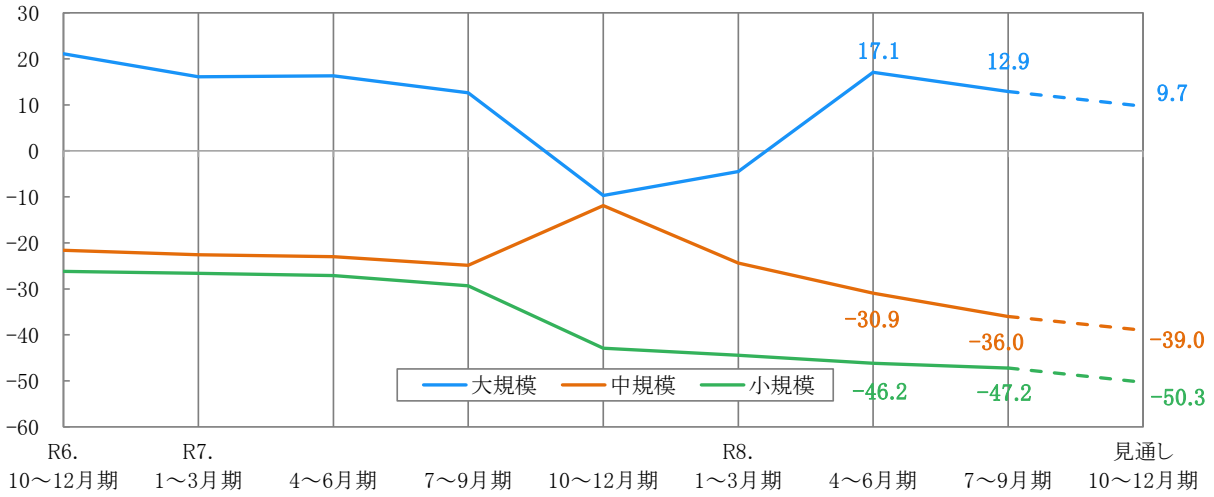
※特積貨物の指数は、「宅配貨物」及び「宅配以外の貨物」の各指数を統合

6 事業者特性別の特徴①:規模別・品目別 業界の景況感

規 模
（注5）

・大規模事業者 ： 12.9（前回17.1）と4.2ポイント悪化、今後は9.7と3.2ポイント悪化見通し。
・中規模事業者 ： ▲36.0（前回▲30.9）と5.1ポイント悪化、今後は▲39.0と3.0ポイント悪化見通し。
・小規模事業者 ：▲47.2（前回▲46.2）と1.0ポイント悪化、今後は▲50.3と3.1ポイント悪化見通し。

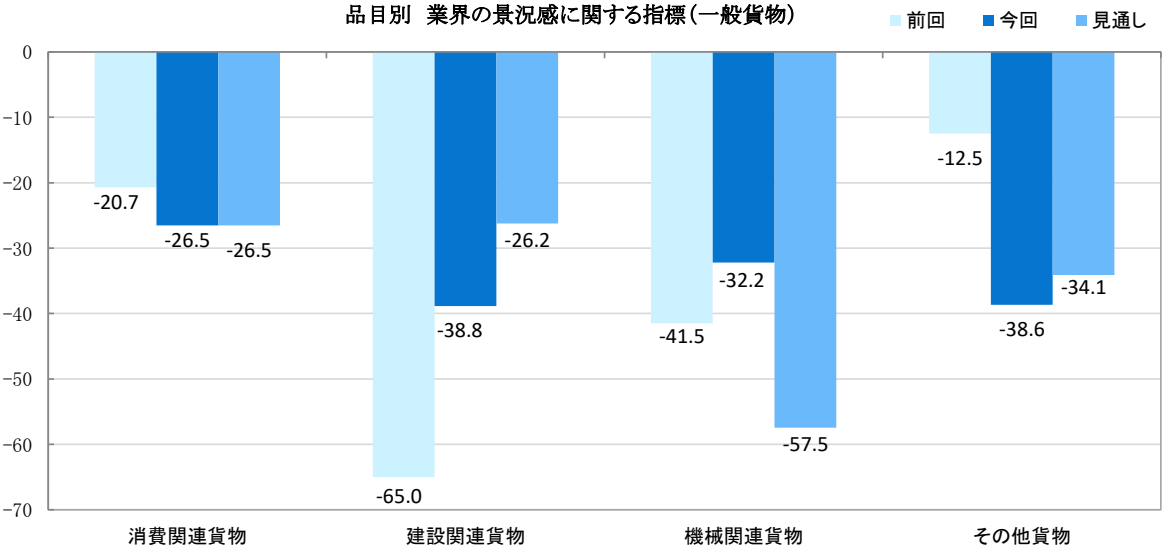
事業規模別 業界の景況感に関する指標の推移



品 目
（注6）

・消費関連貨物 ： ▲26.5（前回▲20.7）と5.8ポイント悪化、今後は▲26.5と横ばい見通し。
・建設関連貨物 ： ▲38.8（前回▲65.0）と26.2ポイント改善、今後は▲26.2と12.6ポイント改善見通し。
・機械関連貨物 ： ▲32.2（前回▲41.5）と9.3ポイント改善、今後は▲57.5と25.3ポイント悪化見通し。
・その他貨物 ： ▲38.6（前回▲12.5）と26.1ポイント悪化、今後は▲34.1と4.5ポイント改善見通し。

品目別 業界の景況感に関する指標（一般貨物）

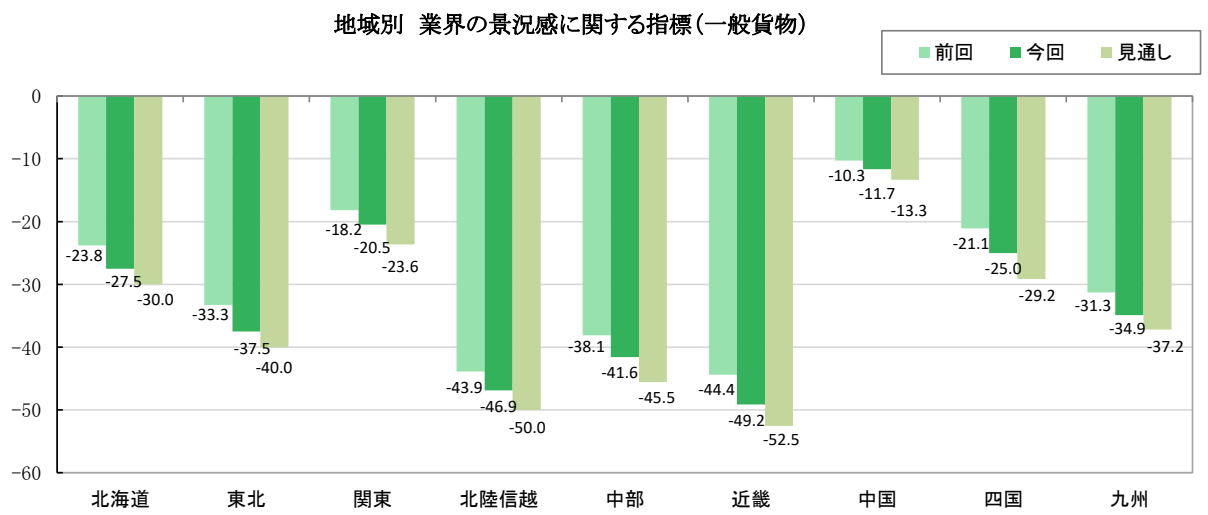


（注5）規模別分類
大規模事業者：101両以上　　中規模事業者：21両以上100両以下　　小規模事業者：20両以下
（注6）品目別分類
消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など
建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など
機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など
その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど
品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

7　事業者特性別の特徴②:地域別・事業形態別　業界の景況感等

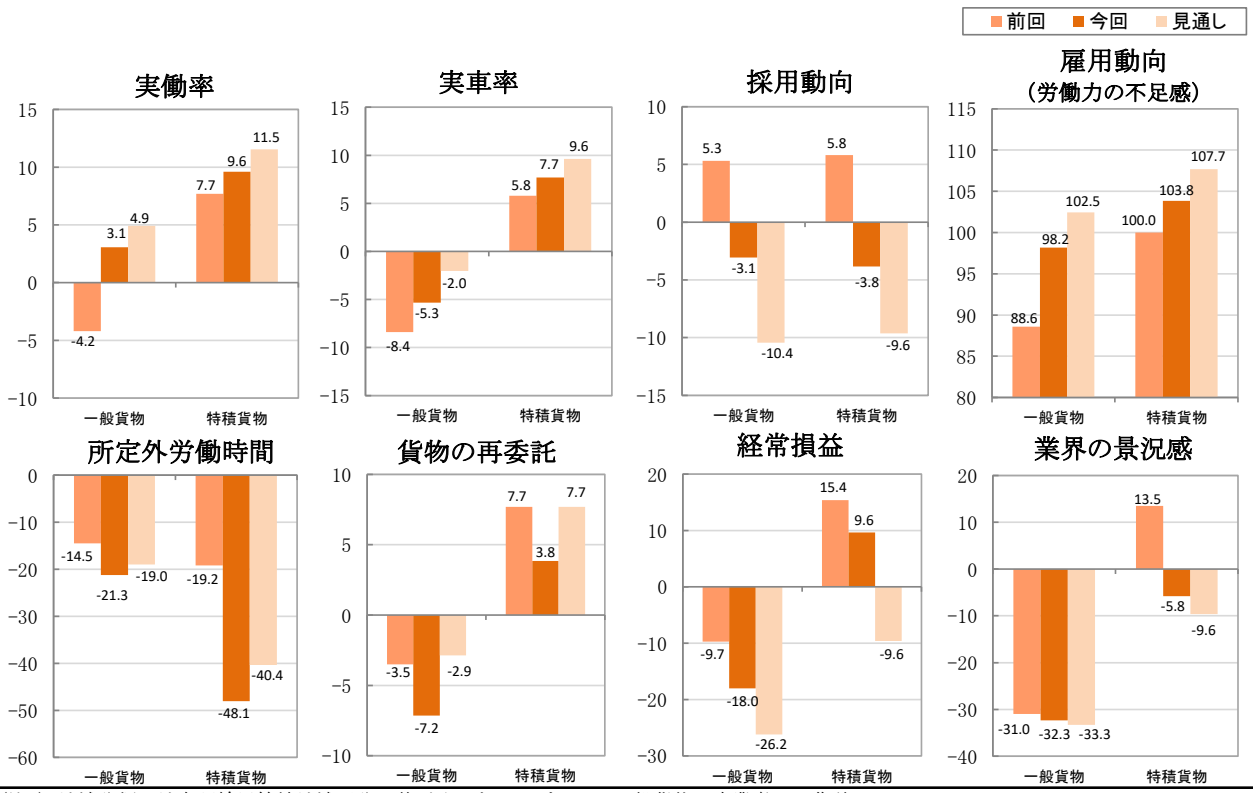
地域
（注7）

- 今期は、全ての地域で悪化した。
- 来期見通しは、全ての地域で悪化の見通しである。



事業形態別
（注8）

- 雇用動向（労働力の不足感）:一般貨物は98.2（見通し102.5）、特積貨物は103.8（見通し107.7）。
- 経常損益:一般貨物は▲18.0（見通し▲26.2）、特積貨物は9.6（見通し▲9.6）。
- 業界の景況感:一般貨物は▲32.3（見通し▲33.3）、特積貨物は▲5.8（見通し▲9.6）。

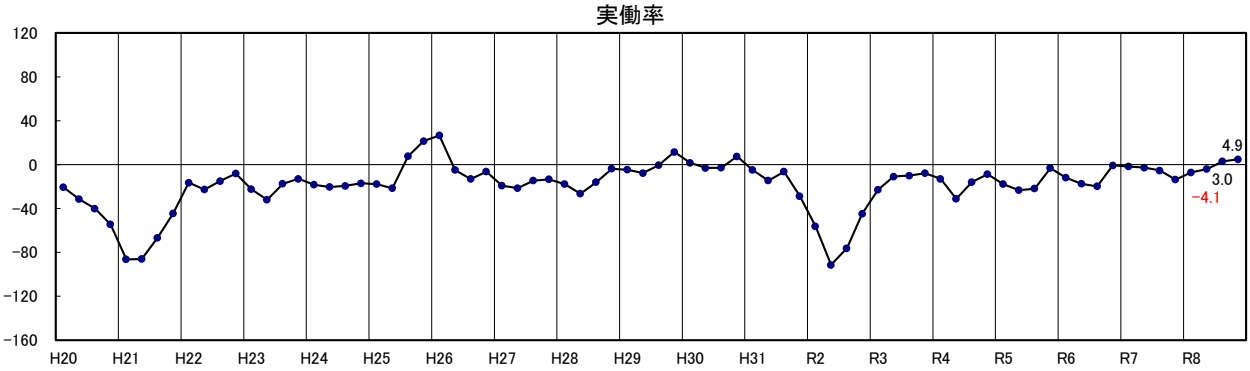


（注7）地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。
（注8）事業形態の分類は、「一般貨物」及び「特積貨物」である。

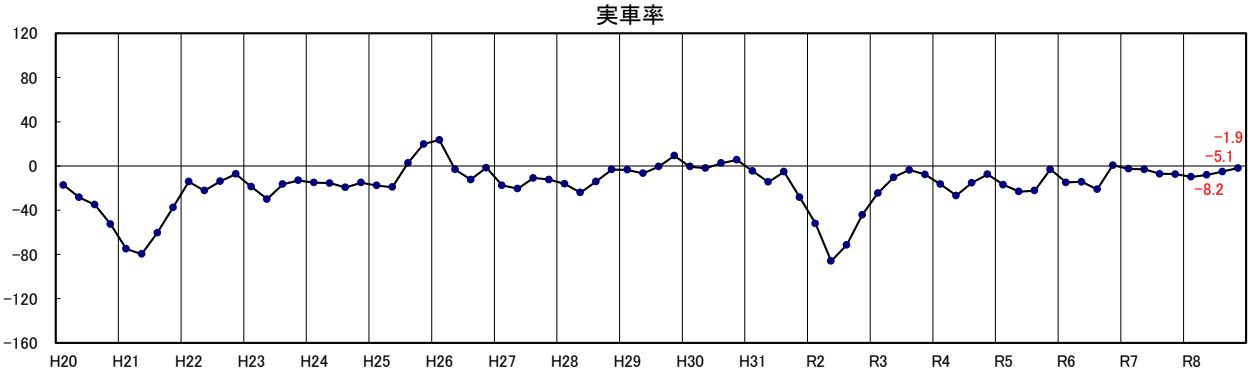
8　業況判断指標の推移（平成20年度～令和8年度第3四半期見通し）

共通の概況①

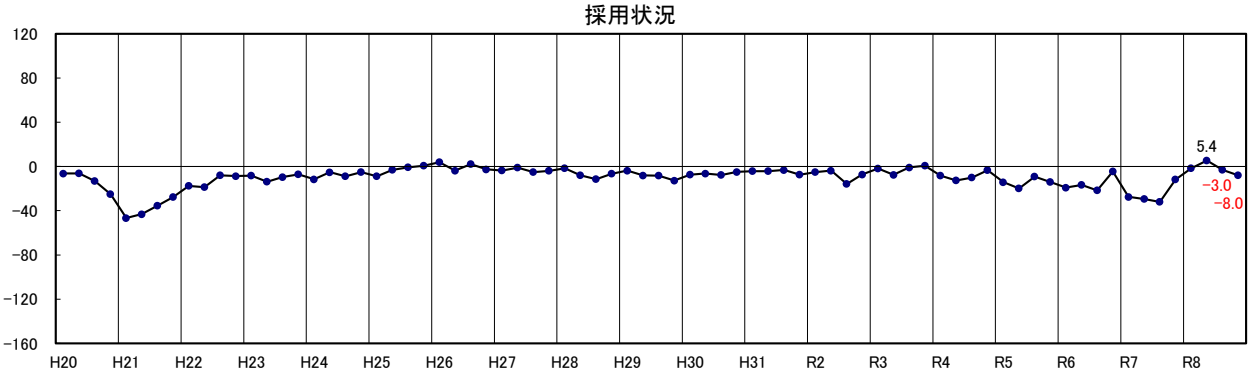
実働率



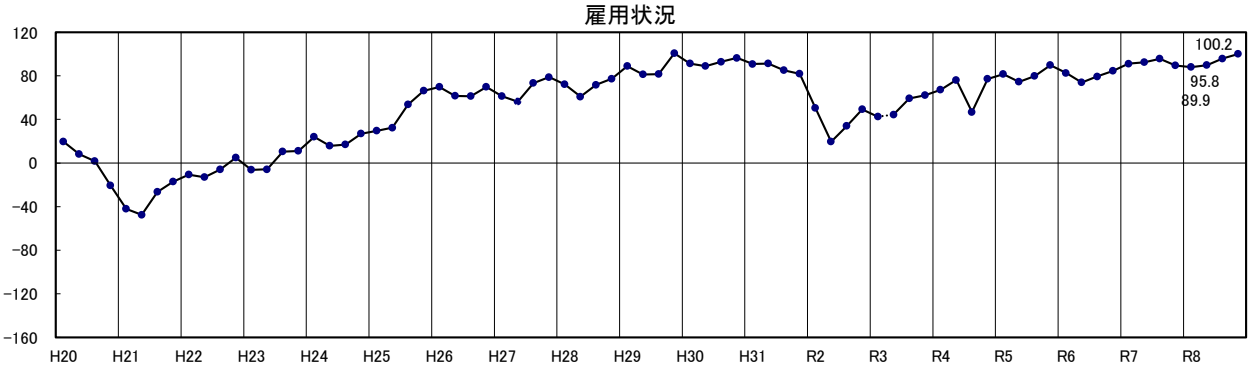
実車率



採用状況



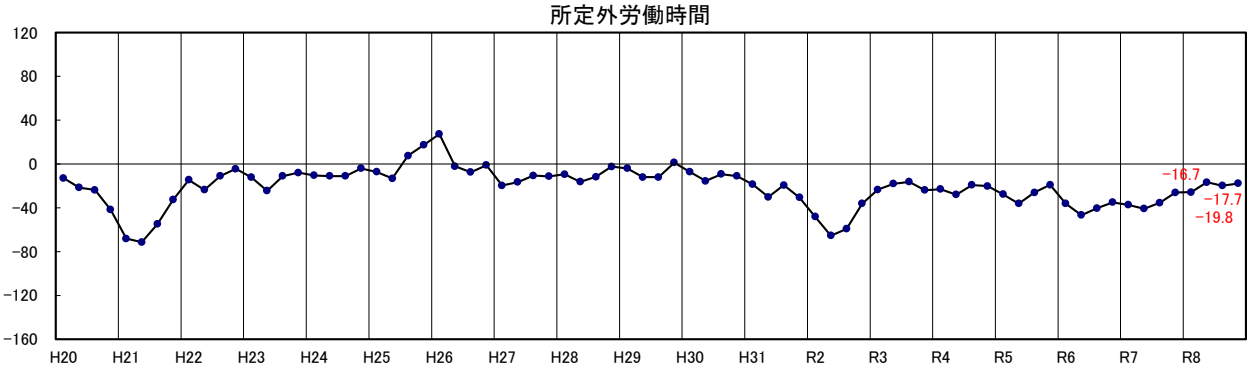
雇用状況



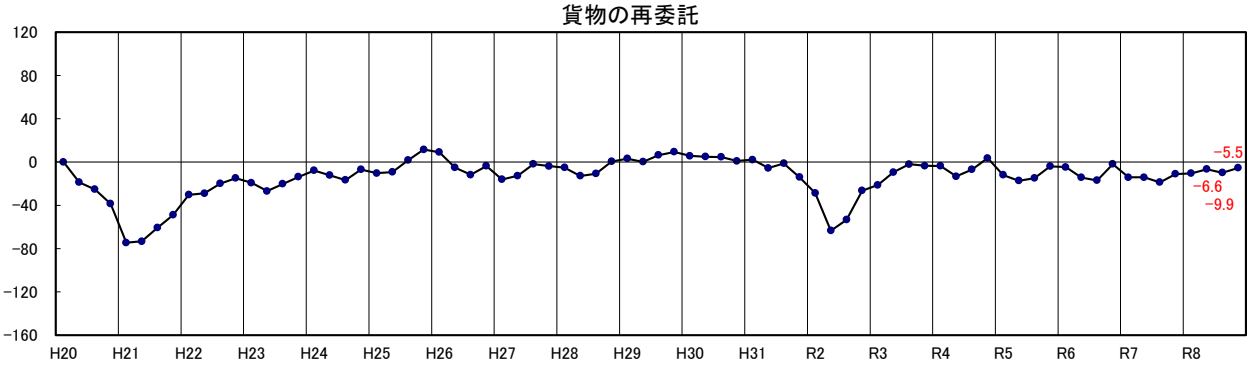
8　業況判断指標の推移（平成20年度～令和8年度第3四半期見通し）

共通の概況②

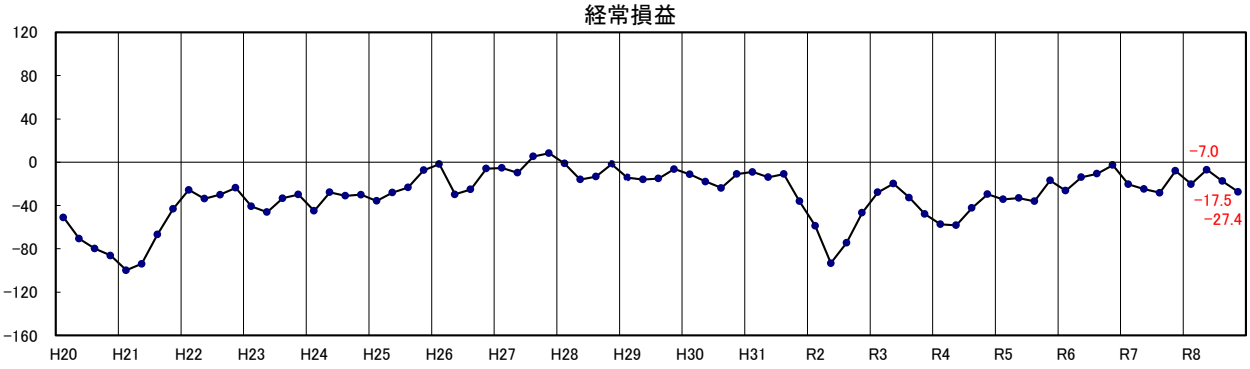
所定外労働時間



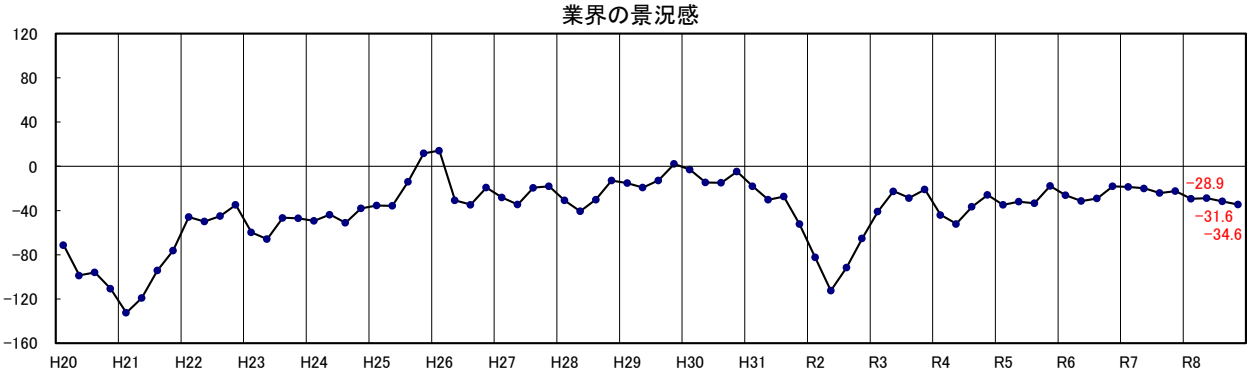
貨物の再委託



経常損益



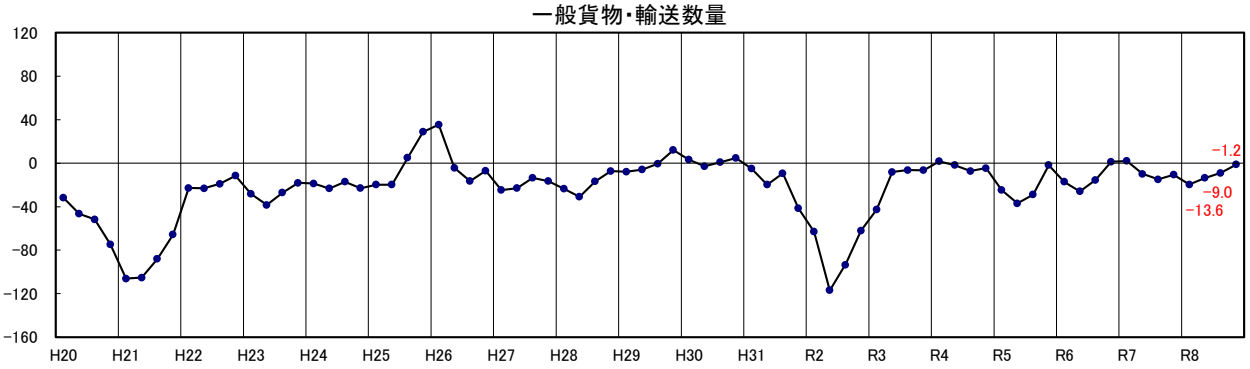
業界の景況感



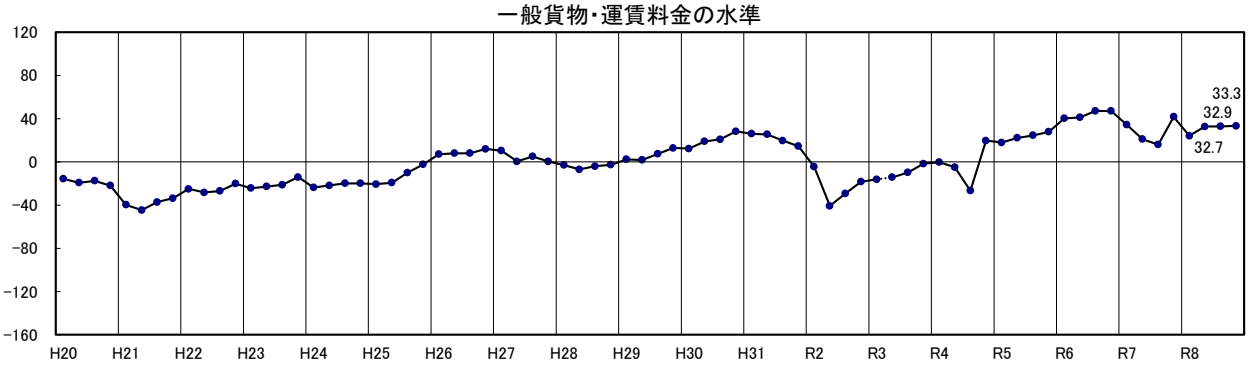
8　業況判断指標の推移（平成20年度～令和8年度第3四半期見通し）

一般貨物

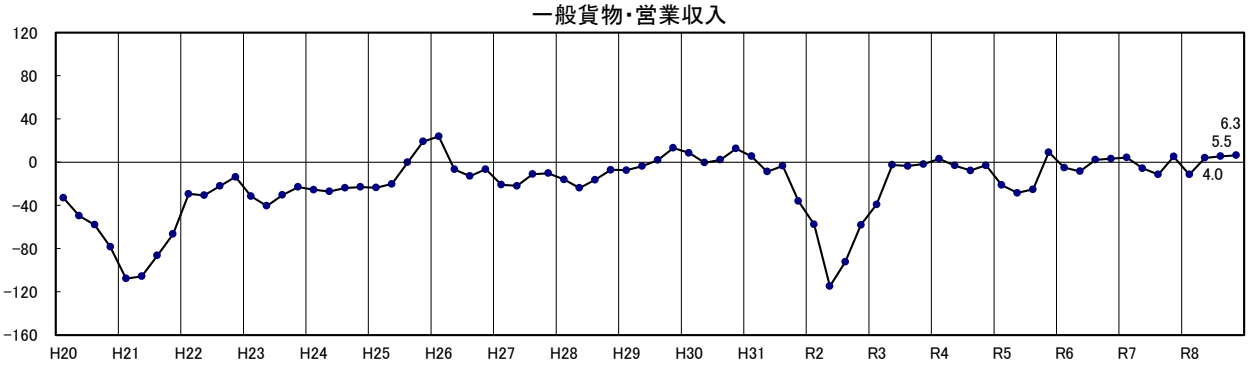
一般貨物・輸送数量



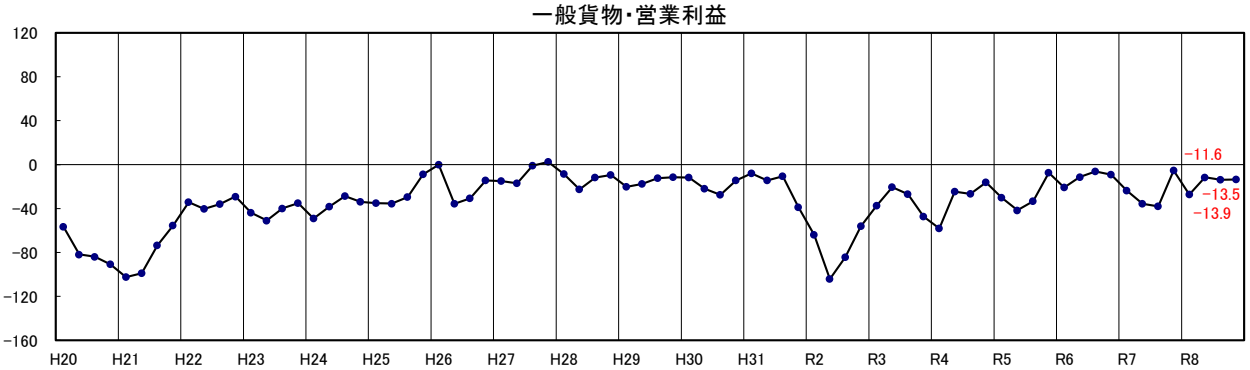
一般貨物・運賃料金の水準



一般貨物・営業収入



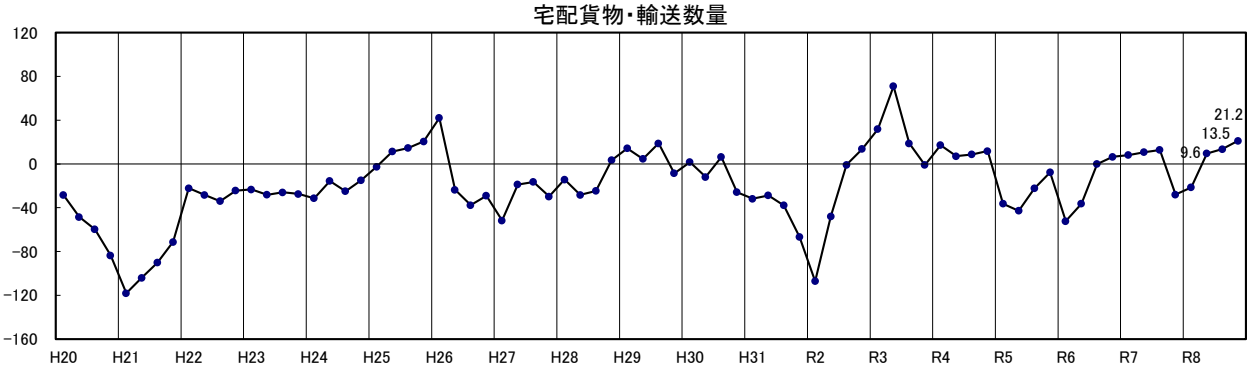
一般貨物・営業利益



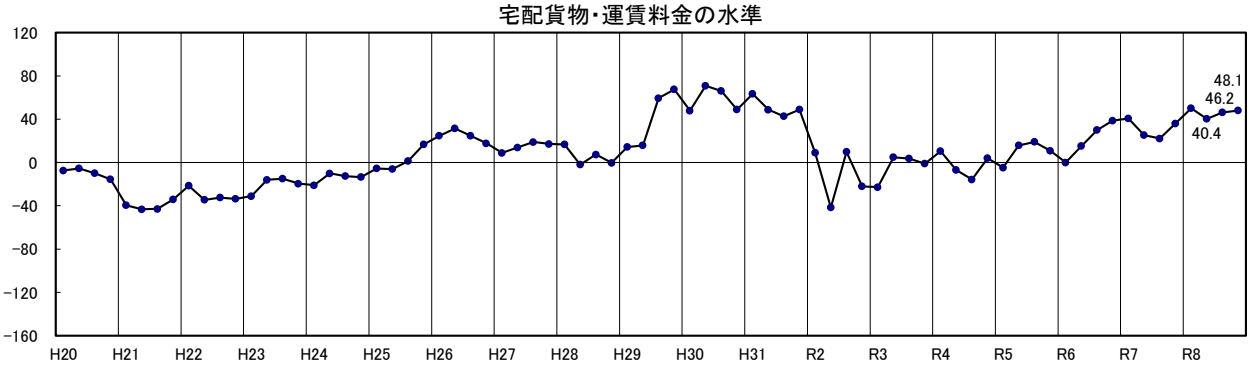
8　業況判断指標の推移（平成20年度～令和8年度第3四半期見通し）

特積貨物

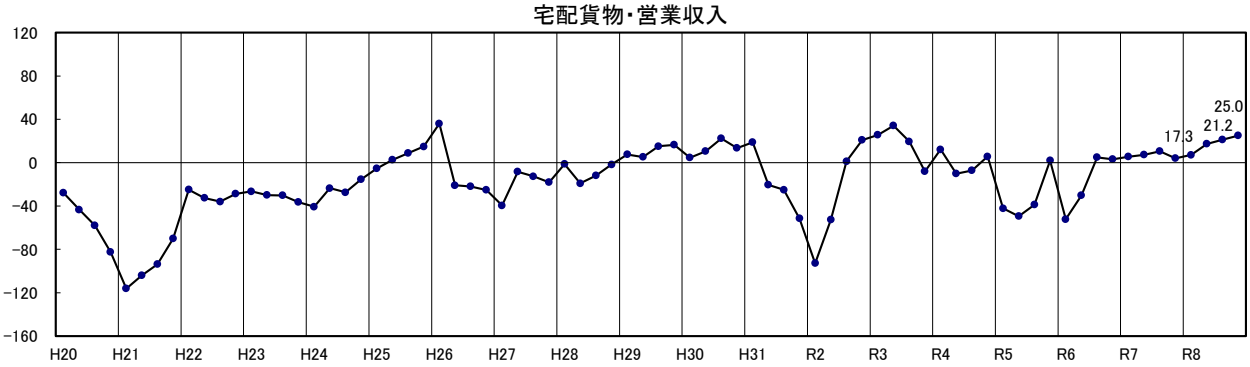
宅配貨物・輸送数量



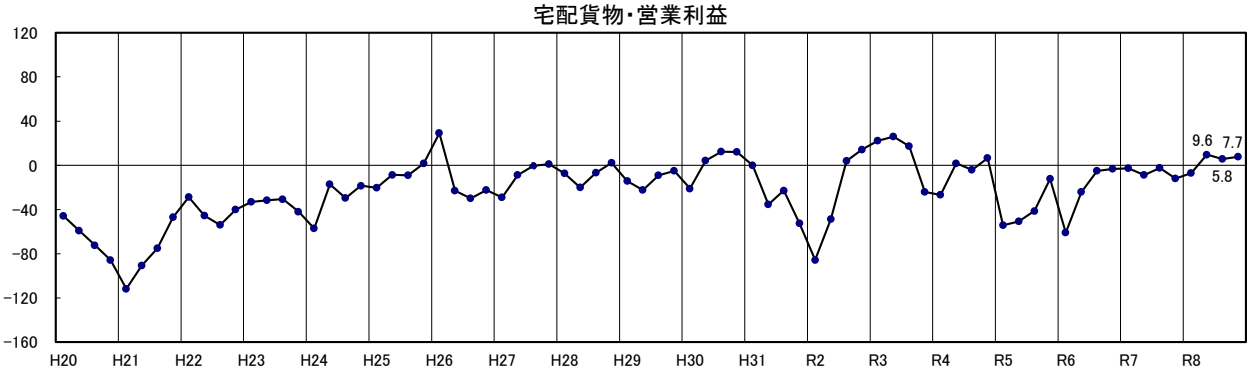
宅配貨物・運賃料金の水準



宅配貨物・営業収入



宅配貨物・営業利益



※ 特積貨物として「宅配貨物」及び「宅配以外の貨物」を統合